

連載シリーズ5「世界の潮流：核兵器のない世界」

黒澤 満

新しい核ガイダンスの作成

オバマ政権は現在、新しい核ガイダンスの作成に取りかかっている。ソウルでの核セキュリティ・サミットに出席したオバマ大統領は、2012年3月26日に演説を行い、3年前のブラハ演説の内容を再確認し、核兵器を使用した唯一の国として、米国は核兵器のない世界に向けて行動する責任があると再び述べた。

またオバマは核兵器の数と役割を低減するために、国家安全保障戦略における米国の核態勢を変更したとして、新たな核兵器を開発しないこと、核兵器のための新たな任務を追求しないこと、核兵器の使用または使用の威嚇を行う事態の範囲を狭くしたことを強調した。

この新たな核ガイダンスについては、冷戦期から引き継いだ大量の核兵器は、核テロを含む現在の脅威にまったく適合していないことを認め、昨年夏以来、米国の核兵器の包括的な研究を行うことを安全保障チームに命令したが、研究はまだ進行中であると述べている。

この作業は、2010年4月にオバマ政権が作成した「核態勢見直し(nuclear posture review)」を具体化するもので、どのようにしてオバマ大統領の主張する核兵器の数および役割を低減させるかを定めるものである。

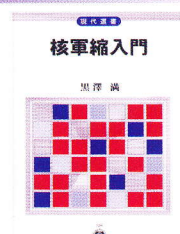
2010年4月に署名され、2011年2月に発効し、現在実施されつつある「新START条約」は、2018年までに、それぞれの核弾頭を1550に、運搬手段を700に削減することを規定している。しかしこれは米国の核運用計画としては、ブッシュ政権時に作成された2008年のものに依存しており、オバマ政権の核態勢に基づくものではない。

昨年12月14日にAP通信は、オバマ政権は、配備された核兵器の数を80%も削減するものを含む大幅な新たな削減のオプションを検討しており、それは歴史的なものであり政治的にも大胆なものであると報道した。すなわち、行政府は、新START条約で1550へ削減するとされている核弾頭を、1000-1100、700-800、300-400にまで削減するという三つのオプションを検討しているというものである。

米国政府は、今年1月5日に新たな国防指針を提出し、二正面戦略を放棄し、東アジアを重視するとしたが、そこでも「われわれの抑止の目的はより少ない核戦力で達成しうる。それは国家安全保障戦略における核兵器の保有数を削減し、核兵器の役割を低減するものになる」と述べている。

ソウル演説では、オバマ大統領は5月にブーチン大統領と会談する際に、戦略核兵器のみならず、戦術核兵器および配備されていない核兵器についてもそれらの削減について議論したいと述べている。このように米国の積極的な姿勢が顕著であり、新たな核ガイダンスの作成が期待されるが、実質的な交渉は秋の大統領選挙の後になると考えられる。

書籍紹介



学術選書『核軍縮と世界平和』黒澤満著

(信山社、2011年4月、305ページ)

現代選書『核軍縮入門』黒澤満著

(信山社、2011年7月、138ページ)

紹介者 吉田文彦 (朝日新聞論説副主幹)

日本を代表する軍縮国際法の研究者である黒澤満・大阪女学院大学教授の最近の著書2冊をとりあげたい。『核軍縮と世界平和』は研究者・専門家、あるいはそれを目指す人たちに適した好著であり、『核軍縮入門』は文字通り、初心者にもわかりやすい構成・内容となっている。異なる読者層に向けた2冊ではあるが、いずれにも、著者の長年の学研生活が凝縮されたような俯瞰力、分析眼が投射されている。

『核軍縮と世界平和』は、第1章において、米国のオバマ政権誕生後の新展開を考察する。「核兵器のない世界」をめざすことを宣言し、「核兵器を使用したことがあるただ一つの核保有国として、米国は行動する道義的な責任を持っている」との認識を示したオバマ大統領のもとでの核軍縮・不拡散政策の新機軸を総合的に考察している。大幅な核軍縮にとって不可欠な作業である核兵器の役割低減を打ち出した「核態勢見直し」については、「核兵器のない世界における平和と安全保障を求める方向を明確に示すもの」と評価し、従来の米国の「核態勢見直し」とは大きく異なることを強調している。

米ロ間の新START(戦略兵器削減)条約は、米国史上初めて、「民主党の大統領、民主党多数の連邦議会上院」のコンビネーションのもとで合意・発効した核軍縮条約である。この新START条約については、「一定数が削減されることに意義がある」とする一方で、「さらに(核兵器の)役割低減の手段として、現在も警報即発射態勢にある両国のミサイルの警戒態勢解除などの問題が論議されるべき」と問題提起している。

『核軍縮入門』は第1章で、「核兵器出現以来の国際社会の歴史的背景を整理」するとともに、「広島・長崎への原爆投下から現在までの核兵器および核軍縮の流れ」が簡潔にまとめられている。その後の各章で、核兵器の役割低減や量の削減、拡散の防止などの個別テーマに関する最先端の情報と解説が記されている。この入門書で関心・問題意識を強め、『核軍縮と世界平和』へと読み進む読者が大からんことを期待してやまない。

編集後記

「昨今、グローバル人材育成の必要論が叫ばれる。だが枕詞に『日本の国益のために』と一言入れた後の育成論であることが意外に多い」と朝日新聞にあった。地球市民としての「グローバル人材」には何が必要なのだろうか。(く・て・た・な)